

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第2巻：25-34（1993）

手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅲ — ヨシ原、水田、畑地、斜面林（1992） —

齊藤安行・大山紀子

はじめに

手賀沼は千葉県北部に位置する湖沼で、古くから水禽類の渡来地として知られている（黒田1985）。我孫子市鳥の博物館と山階鳥類研究所では、手賀沼とその周辺の鳥類の生息状況を把握する目的で、鳥類のセンサス調査を行っている。調査では、調査地周辺の代表的な環境を①水面、②ヨシ原、③水田・畑地、④斜面林に区分し、各区分ごとにセンサスを行っている。1988年から1990年までの水面域のセンサス調査結果と、1988年から1991年までのヨシ原、水田・畑地、斜面林のセンサス調査結果については、すでに我孫子市鳥の博物館調査研究報告第1巻で報告したとおりで（齊藤他1992a, b）、代表的な生息鳥類とその個体数の季節変化の傾向、生息環境別の優占種のちがいが把握できた。

さらに、鳥相や個体数の経年的な変動傾向などをモニタリングするため、センサス調査を継続しデータを収集している。

本報文では、1992年1月から12月までに行ったヨシ原、水田・畑地、斜面林でのセンサス調査によって得られたデータの集計結果を報告する。

調査地と方法

手賀沼は北部と南部二つの沼からなり、それぞれ本手賀沼、南部手賀沼と呼ばれているが、調査は本手賀沼（以下「手賀沼」と呼ぶ）周辺で行った（図1）。

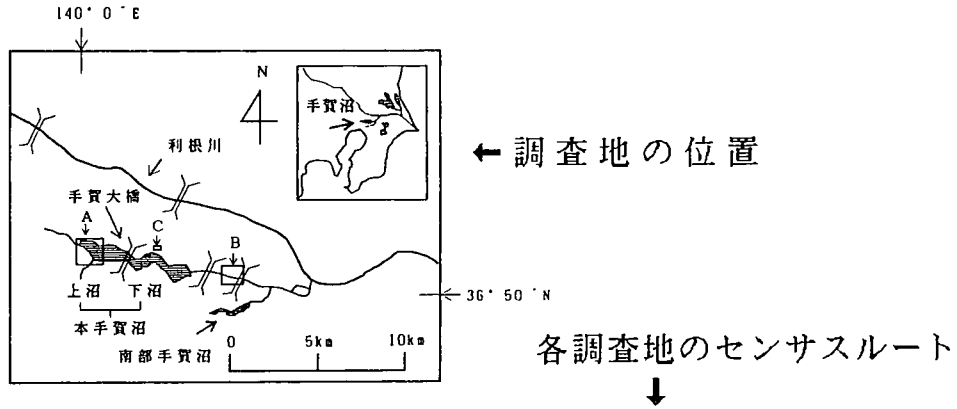
手賀沼の周囲は、堤防で囲まれているが、水面と堤防の間には、ヨシなどの抽水植物群落が生育する。堤防の周囲には水田・畑地が広がり、その背後は高度差10mほどの斜面がありアカマツや常緑広葉樹の二次林となっている。これらの環境をそれぞれ①ヨシ原、②水田・畑地、③斜面林に分け、各環境区分の中にセンサスルートを設け各ルートにつき月一回の割合で調査を行った。

調査では、センサスルートに沿って歩きながら、観察範囲内に出現した鳥類の種と個体数を記録した。観察には、双眼鏡（8倍）と地上望遠鏡（20～40倍）を用いた。調査日時、天候は付表に示したとおりである。

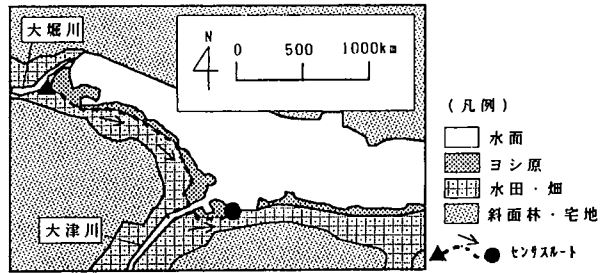
各調査地の概況とセンサスルートの設定、調査要領は下記のとおりである。

①ヨシ原

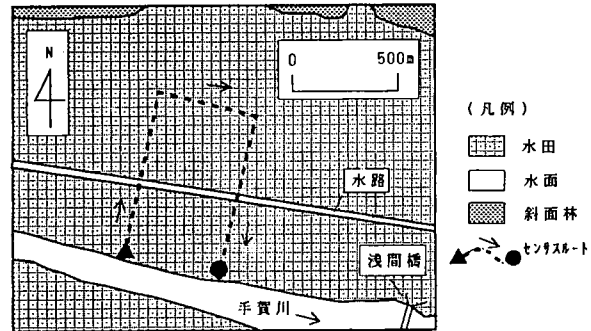
・調査地A：手賀沼上沼南岸の堤防より水面川の抽水植物群落。岸から水面に向かって、順にヨシ、マコモ、ヒメガマが生育するほか、ヨシの中にヤナギの仲間が点在する。抽水植物群落は、岸に沿って約10mの幅で帯状に分布するが、大津川、大堀川などの流入河川



A: ヨシ原



B: 水田・畑地



C: 斜面林

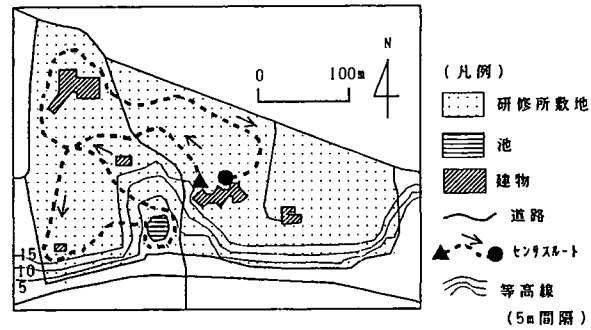


図1 調査地とセンサスルート

の河口部では、最大幅約100mに達する部分もある。調査は、堤防上に設けたセンサスルートに沿って歩きながら、抽水植物群落内にて確認した個体すべてをカウントした。センサスルートは約2.2km、調査地の面積は約14haである（図1）。

②水田・畑地

・調査地B：手賀沼の流出河川「手賀沼」に沿った幅約1,500mの広い水田。5月上旬に田植えが始まり、9月下旬には稲刈りが終わる。観察地水田の畦畔に沿って設けたセンサスルートを歩きながら、左右それぞれ約50mの範囲内で観察した個体をカウントした。センサスルートは約2km、観察範囲は約44haである（図1）。

③斜面林

・調査地C：手賀沼下沼北岸後背の斜面林と台地の一部を含み、日立総合経営研究所の敷地となっている。植生は常緑広葉樹の混じるアカマツ林で、一部にはモウソウチクの林も分布する。下草の手入れが行われているため、下層植生は台地の平坦部では乏しいが、斜面には残存する。また斜面の下部には湧水によってできた池があり、そのまわりには水生植物が生育する。調査は林内の遊歩道に沿って設けたセンサスルートに沿って歩きながら、左右それぞれ約25mの範囲で確認した個体をカウントした。センサスルートは、約2km、観察範囲は約6haである（図1）。

調査結果

1 ヨシ原

ヨシ原では、8日18科34種の鳥類が出現した（表1）。出現種数は2月に最大の20種、5月と7月に最少の6種であった（図2）。出現個体数は2月に最大の373羽、8月に最少の20羽であった（図3）。出現した鳥類の通年の累積個体数の上位5種を比較すると、スズメ、オオヨシキリ、オオジュリン、カルガモ、コガモの順に優占していた（図4）。最優占種のオオヨシキリは、繁殖期に渡米する夏鳥であり、第2位のオオジュリンは越冬のために渡米する冬鳥であった。

2 水田・畑地

水田・畑地では、9日20科38種の鳥類が出現した（表2）。1～3月は未調査であるが、4～12月までの間で、出現種数は、11月が最大で334羽、7月が最少の51羽であり各月とも種数に大きな変化は見られなかった（図6）。4月から12月までに出現した鳥類の累積個体数の上位5種を比較すると、スズメ、ヒバリ、ムナグロ、ハンボンガラ、ムクドリで優占していた（図7）。ムナグロは、4月、5月に多数出現した他、9月にも1羽確認した。

3 斜面林

斜面林では、5日16科30種の鳥類が出現した（表3）。出現種数は、2月が最大の20種、10月が最少の6種であった（図8）。出現個体数は、3月と11月が最大の95羽、8月が最少の23羽であった（図9）。通年の累積個体数の上位5種を比較すると、ヒヨドリ、スズメ、アオジ、カワラヒワ、メジロの順で優占していた。（図10）。この中で冬鳥のアオジ以外は、調査地では通年見られる留鳥であった。

表1 ヨシ原のセンサス結果(1992年)

種名	月/日												計
	1/21	2/20	3/27	4/21	5/13	6/25	7/22	8/23	9/22	10/16	11/17	12/9	
ヨシゴイ						4	9						13
ゴイザギ	1							1					2
コサギ		1											1
アオサギ			3										3
カルガモ	2	70	11	5		1	1	1		2			93
コガモ	5	17	11	21			3						57
ホシハジロ		1											1
キジ	1	2	1	2	1								9
バン	3	8	2	15	4	3		5	1	2			41
オオバン	9	2	6	5	3	3		5	1				34
タンギ									1				1
ユリカモメ								1					1
キジバト		2					2		3				7
カワセミ								1					1
ツバメ				2		1		2					5
ハクセキレイ	2	1											3
ヒヨドリ	1												1
モズ		1								1	1		3
ジョウビタキ			2								1	1	4
ノビタキ										1			1
ツグミ	6	9	1	2							2	2	22
ウグイス		1									5	4	10
オオヨシキリ				2	51	53	19	4					129
セッカ		1		5	2	1	1		1		1		12
ホオジロ	14	11								2	10	11	48
ホオアカ				1									1
カンラダカ	1	1									4		6
アオジ	5	6	2	2								3	18
オオジュリン	22	51	19	1						2	12	20	127
カワラヒワ		13							2	5		3	23
ベニマシコ												1	1
スズメ		164		3	2	2			85	40	8	16	320
ムクドリ	11	11	2										24
ハシボソガラス			1	1									2
個体数合計	83	373	61	67	63	68	35	20	94	53	46	61	1024
種数	14	20	12	14	6	8	6	8	7	7	10	9	34

表2 水田・畑地のセンサス結果(1992年)

種名	月/日												計
	1月	2月	3月	4/21	5/13	6/25	7/22	8/26	9/1	10/16	11/17	12/9	
カイツブリ								2	2				4
ヨシゴイ						2							2
ゴイザギ						1	1						2
アマサギ								3	29				32
ダイサギ				1		4	3			1			9
チュウサギ				4	5	6	6	10	11	7			49
コサギ				1	1	1	3	4	2	5	1	1	19
カルガモ					1	3	2	1					7
サシバ							1						1
チョウゲンボウ				1					1		1		3
オオバン											1		1
ムナグロ				32	91				1				124
キョウジョシギ					37								37
キアシシギ					2								2
タンギ									1				1
オオジシギ									6				6
カワラバト(フバト)				7	8			1					16
キジバト				1	2			1	2	2		1	9
カワセミ											1	1	2
ヒバリ				12	3	7	13	8	12	42	64	73	234
ショウドウツバメ									13	2			15
ツバメ					7		2	11	2				22
ハクセキレイ				1	1				3	6	1	1	13
タヒバリ				7							16	13	36
モズ										1			1
ツグミ				14								12	26
ウグイス					1								1
コヨシキリ							1						1
オオヨシキリ					14	9	4	2				3	29
セッカ				2	3	5	5	14	12		1		42
ホオジロ											1	5	6
カンラダカ				3							1	5	9
カワラヒワ							1					5	6
スズメ						20	1	8	8	108	167	132	444
ムクドリ				4	10	3	7	1	4				29
オナガ							1						1
ハンボソガラス				4	8	2		2		1	78	1	96
ハンブトガラス					1				1	1	1		4
タンギ属 s.p.				1									1
個体数合計				95	195	63	51	68	110	176	334	250	1342
種数				15	17	12	15	14	17	11	13	12	38

注：1月～3月は未調査

表3 斜面林のセンサス結果 (1992年)

種名	月/日												計	
	1/21	2/19	3/27	4/21	5/13	6/25	7/22	8/26	9/1	10/16	11/17	12/9		
コガモ	1	2											3	
コジュケイ	1	2				1							4	
キジ		1	2				1						4	
キジバト	1	2	6	2	2	2	1	2	2	3	2	1	26	
コゲラ		3	1				1		1			2	8	
ツバメ					4		5						9	
ハクセキレイ		1	2	1	1	2					4	2	13	
ビンズイ	5		3								5		13	
ヒヨドリ	3	10	13	12	5	9	11	8	10	24	45	23	173	
モズ										1			1	
ルリビタキ												2	2	
アカハラ	1												1	
シロハラ		1	3								1	2	7	
ツグミ	4	4	1	1							4	2	16	
ウグイス		1	2										3	
キタイタダキ		2											2	
ヒガラ											1		1	
シジュウカラ	3	4	3		1			1	1		4	3	20	
メジロ	5	4	10	1				1	4	1	13	11	50	
ホオジロ					1		2						3	
カシラダカ		2											2	
アオジ	18	13	22	8							4	11	76	
カワラヒワ	3	21	14	7	9	4	5				2	2	67	
シメ	1		1										2	
スズメ	1	5	5	4	25	17	6	4	5	3	4	4	83	
ムクドリ	4	3	6	7	9	3	9	4					45	
カケス											2	1	3	
オナガ	2	1		1		2	2	1					9	
ハンボソガラス						1		1	1			4	7	
ハンブトガラス	1	6	1			1		1	1	1		2	14	
ツグミ亜科 s.p.		1		1								2	1	5
カラス属 s.p.									1			2	4	7
個体数合計	54	89	95	45	57	42	43	23	26	33	95	77	679	
種数	16	20	17	10	9	10	10	9	8	6	13	15	30	

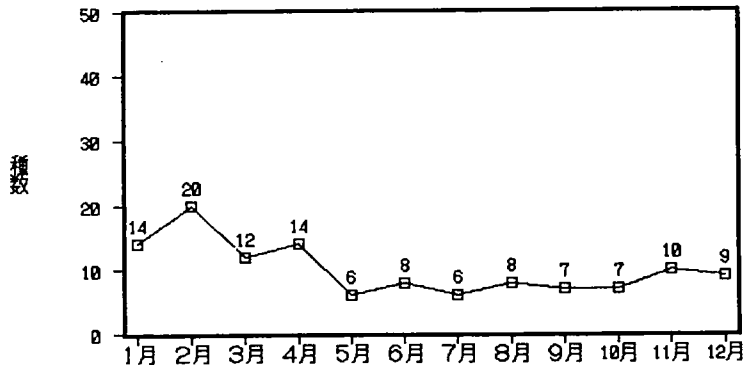


図2 種数の月変化 (ヨシ原)

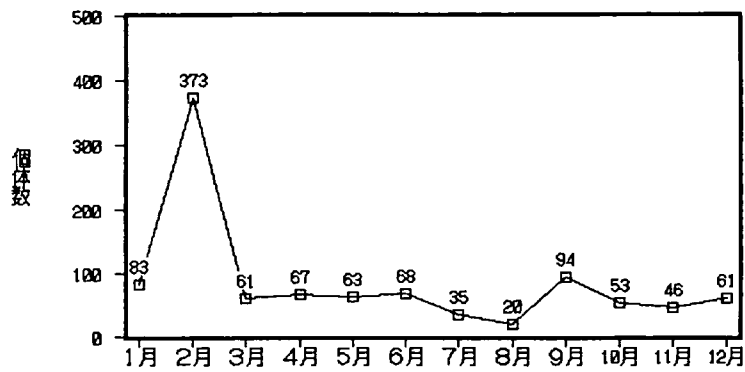


図3 個体数の月変化 (ヨシ原)

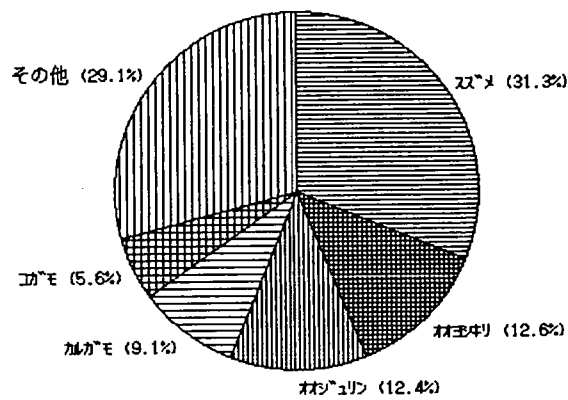


図4 累積個体数の優占割合 (ヨシ原)

注: n=1024

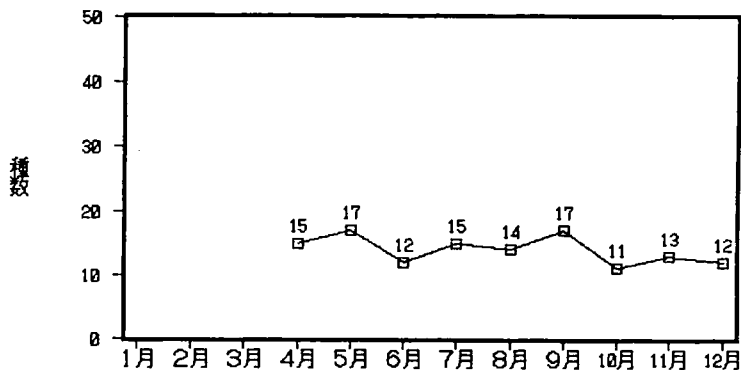


図5 種数の月変化（水田・畑地）

注：1月～3月は未調査

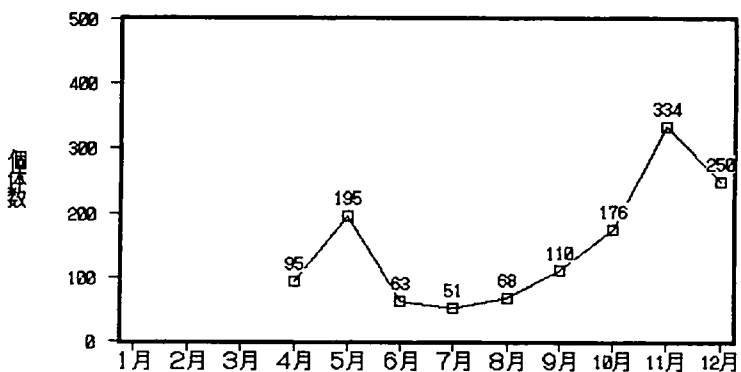


図6 個体数の月変化（水田・畑地）

注：1月～3月は未調査

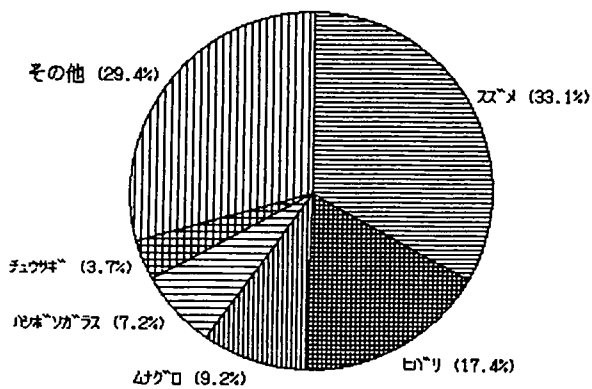


図7 累積個体数の優占割合（水田・畑地）

注1：n=1342

注2：1月～3月は未調査

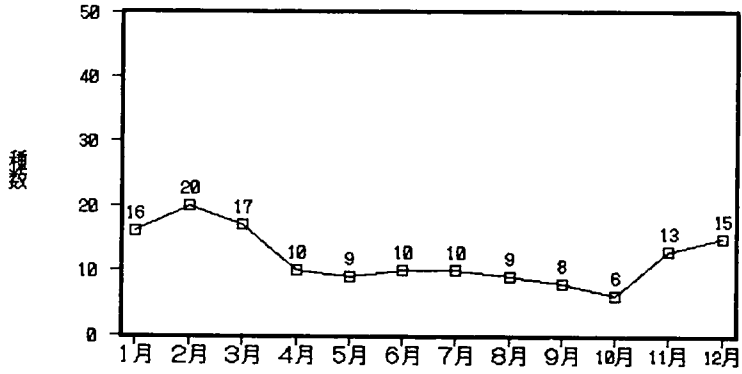


図8 種数の月変化 (斜面林)

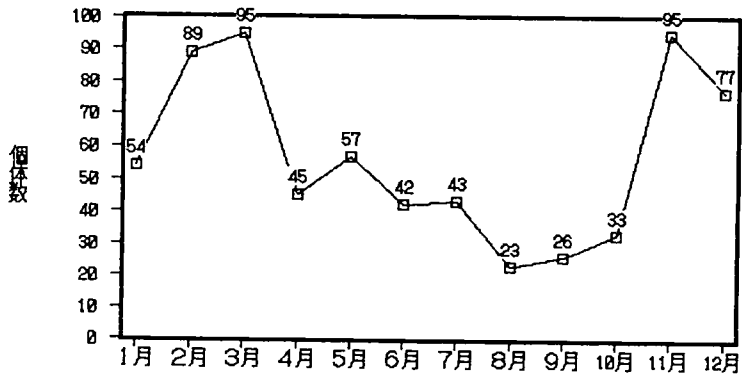


図9 個体数の月変化 (斜面林)

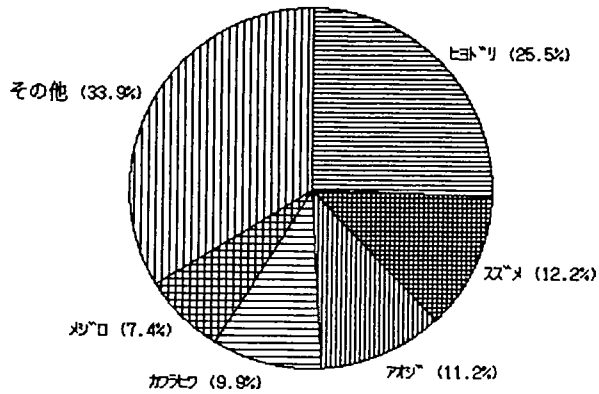


図10 累積個体数の優占割合 (斜面林)

注1 : n = 674

引用文献

- 黒田長久. 1985. 水鳥の里, 手賀沼-我孫子移転にあたって-. 山階鳥類研究所報告17(72):3-8.
- 斉藤安行・百瀬邦和・平岡考・鶴見みや古・大山紀子. 1992 a. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅰ-ヨシ原, 水田・畑地, 斜面林(1988-1991)-. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告1:43-59.
- 斉藤安行・平岡考・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992 b. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅱ-水面(1988-1990)-. 我孫子市鳥の博物館調査報告1:61-73.

Bird census report of the Lake Teganuma and the periferal area.Ⅲ

-Reed bed, Farmland, Woodland(1992)-

Yasuyuki Saito, Noriko Ohyama

Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba, 270-11, Japan

付表 調査日時・天候

年月日	天候	調査時間		
		A (ヨシ原)	B (水田・畑地)	C (斜面林)
1992年1月21日	晴れ	10:45~12:31		8:30~9:05
2月19日	くもり			8:05~8:56
2月20日	くもり	7:33~9:13		
3月27日	くもり	9:30~11:20		7:45~8:45
4月21日	晴れ	8:25~10:28	11:00~12:00	8:55~9:45
5月13日	くもり	8:25~10:10	10:30~11:30	8:45~9:27
6月25日	晴れ	8:30~10:4	10:50~11:42	8:58~9:35
7月22日	くもり	8:30~10:00	10:18~11:07	8:55~9:30
8月23日	晴れ	10:44~12:30		
8月26日	晴れ		8:45~9:45	8:43~9:10
9月22日	晴れ	9:00~9:40	9:15~10:40	8:20~9:00
10月16日	晴れ	8:45~10:00	10:25~11:00	8:59~9:30
11月17日	くもり	8:30~9:40	10:50~11:32	8:51~9:50
12月9日	晴れ	8:32~10:20	10:49~11:15	8:49~9:49